

●資料紹介

アチツクミュージ엄日誌 (2) 昭和一二年一月～二月

神奈川県立日本常民文化研究所蔵のアチツクミュージ엄日誌のうち、昭和一一年分を翻刻する。

日誌は、昭和一〇年分では高木一夫、袖山富吉、浜田国義の三人が記入していたが、今回翻刻した一一年分ではほとんど浜田一人の記入となっているようである。その理由のひとつには、三月五日の記事にあるように、出版を担当していた高木が書生部屋からアチツク二階に仕事を移したことがある。「マンスリー」一九号にも高木自身が「昨年、圖書整理のかたはら出版事務に携つてゐたので今年も引き続きさうしてゐたが出版物が多数計画されたので三月頃から出版の方を専門に始め、同時に文庫からアチツクの二階に引越して来た」と書いている。そのため一〇年分に詳しく書かれていた出版に関する記事が減り、圖書整理の細かな記載が増えた。二・二六事件に関する記事や「防空演習始まる」という記述に、世の中の動きが垣間見える。なお、日誌の概要については『歴史と民俗』一七所載の「アチツクミュージ엄日誌(1)」を参照されたい。

今回もわかる範囲で註を施したが、不明な点や誤った記載が多くあるものと思われる。今後も調査を続け正確を期したいと考えているが、ぜひ大方のご指摘もいただきたいと思う。重ねてご協力をお願い申し上げたい。

(筆写・文責 窪田涼子)

(資料翻刻にあたって留意した点)

- 1、人名、書名などには可能な限り註を施した。但し現時点で手元にある資料を基にしたため、不明な点も多く、誤記もあるものと思われるが、逐次加筆訂正していききたい。
- 2、原本のうえで抹消されている文字はへ、ゝ内に抹消した文字を記した。

例 原本「鬼喜界島」 ↓ 翻刻「喜へ鬼ゝ界島」

- 3、句点や読点などは、できるだけ原本に即した形とした。
- 4、改行は、できるだけ原本の形を生かしたが、文がひとつづきの場合などは適宜送り込んだ。
- 5、編集上の注記は【 】で示した。
- 6、人名などの固有名詞以外の漢字は原則として常用漢字を使用した。

昭和十一年一月一日(水曜)快晴
二重橋に行き宮城遙拝 明治神宮参拝
午後、市川さんを上野駅で送る
一日より七日迄同人達休み

一月八日 水曜、晴

今日より仕事始め

浜田 図書目録へカードの転記 今晚より学校始る
藤木さん⁽¹⁾も文庫にて?...
袖山さん夜郷里へ帰省
市川さん夜帰館

一月九日 木曜 晴

浜田 織田文庫目録の整理、

以前張さんが作成した目録より、新しい目録への
転記 但シ、発行年月日なり
夜、五十澤、山本両氏才泊り

一月十日 金曜、晴

浜田 昨日の仕事引続きやる
当分の間、この仕事のつもり
夜アチックの初会
先生夜京都へ御立ち⁽²⁾
袖山さんの部屋に寝る

一月十一日 土、晴

浜田、織田文庫目録整理

十三日 月曜日

浜田 織田文庫目録整^(マ)

十四日 ヨリ

十八日 マデ

浜田 織田文庫目録整理

先生 夜 直江津へ御旅行⁽³⁾

十九日 日曜

浜田 珠算検定試験に行く

夜 お茶の間のカルタ会へ参加

一月二十日 月曜 晴天

先生 早朝 御帰邸

浜田、一日中、諸古本の製本をなす

一月二十一日 火曜、晴

浜田、図書整理

先生風邪で御休み

北大の鈴木醇氏⁽⁴⁾ 御来訪

アチック夜客二人泊る (静岡)

故に袖山さんの部屋に寝る

一月二十二日 水曜 晴天

浜田 古文書 (材木屋)⁽⁵⁾ をへ⁽⁶⁾ 台帳へ登録整理す

一月二十三日 木曜、晴

浜田、昨日に同じ

一月二十四日 金曜

浜田、近頃、はつきりした仕事がなく、失業者の如くな

り 高木さんが近頃、姿を見せないのも何をやつて

良いか、さっぱり分らず

高木さん本日華燭の典を挙げられる

一月二五、日 土曜、

初雪の日なり スキーをやつた

一月二六日、日曜日 晴

文庫に、古文書^(内浦) 係の打合せ会⁽⁶⁾ あり

浜田、柿界氏⁽⁷⁾ のタイプライタ文の区別を手伝ふ 夜、お

茶の間のカルタ会に行く 先生も読手になられ随分
はづむ。

一月二十七日 月曜、

浜田 書庫にあつた書籍を文庫へ持って来て、整理す、

金久好氏⁽⁸⁾ と会ふ、

一月二八日 火曜 晴

浜田、図書整理、

今朝、掃除(文庫)の時お客用の灰皿(石炭製)を一寸の不注意で毀して仕舞った、申訳なし。

一月二十九日、水 晴

浜田、古文書(材木屋)のカード書き

一月三十日 木曜日 晴 風

浜田 図書を台へ整へ帳へ整理す

一月三十一日 金曜日

浜田、新入図書の整理をなす

二月一日 土曜、晴天

浜田 昨日に同じ

二月二日 日曜日

午前 木内書店より購入せし水産関係の書籍を「購入済」でなきやを検べる 二冊見つける

夜、柏竈社の石坂氏の送別会あり

二月三日 月曜 晴

今朝の来室者

土屋、有賀両先生

浜田 図書の整理をなす

二月四日(参)日 火曜

浜田 図書整理

午後より、大雪、夕方吹雪になる 学校は一時間で終了

夜 小松さん十字屋さん才泊り

山口さん今日より九十九里へ御旅行なり

二月五日 水曜

浜田、図書整理 雪かき

午後、雪合戦

夕方高木さんと図書整理について打合せをなす、

従来の図書整理の不備と不便に鑑み、今度から水産

関係のものを五十音順に整理する事にした
(カード)

只今の図書が終了次第すぐ着手するつもりである

本日より大西さん⁽¹⁴⁾文庫へ御出勤される

二月六日 木曜、晴

浜田 図書整理（水産関係）

午後、五十澤氏の原稿謄写を手伝ふ

二月七日 金曜、曇（晴）

浜田 図書整理（木内書店ヨリノ水産関係ノモノ）

近頃先生の御帰り遅し

二月八日 土曜 曇雨

浜田 図書整理

二月九日 日曜日 曇

浜田、午前東雲荘⁽¹⁵⁾よりの古文書類を先生の御指図で包装をなす

大包三ツ出来ル

午後図書整理：就寝一小时前
先生終日文庫

二月十日、月曜、晴 気温十度

浜田、水産講習所試験報告⁽¹⁶⁾

五十余冊の整理（カード作成）

二月十一日 火曜 晴

午後より日本青年館郷土資料室「カンジキとスキー」の展覧会へ手伝ひ⁽¹⁷⁾に行く

夜は学校の生徒、宮城遙拝二重橋マデ行軍

山口さん御帰り

二月十二日 水曜、晴

浜田 終日図書整理。

午後、山口さんの九十九里古文書の整理を手伝す

三田局へ文献索隠発送す。

二月十三日 木曜 晴

浜田 図書整理(書架番号記入)

(学校臨時試験始る)

二月十四日、金曜、

図書整理、

二月十五日 土曜 晴

浜田 図書整理(カードヨリ目録へノ転記)

石坂さん今晚京都へ出立

二月十六日、晴、日曜、

袖山さん信州へ用で行かれる

二月十七日 月曜、晴

浜田 カードへ振仮名つけ

二月十八日 火曜

浜田 五色石の製本

二月一九日 水曜

図書整理、(袖山さん帰る)

二月二十日 木曜

図書整理 選挙の日

二月二十一日 金曜 晴嵐

午前 図書整理

午後 民具問答の写書⁽¹⁸⁾(市川氏指図)

袖山さん水産カード分類を始める

二月二十二日 土曜、晴

浜田 民具問答の写書をなす

山本さん御泊り

二月二十三日、日曜

大雪の日なり

民具問答の写書で一日を費す

二月二十四日 月曜 晴

民具問答の写書をなす。(漸く終る)

二月二十五日 火曜、晴天

先生 今朝七時過文庫へいらしやる

浜田 午前 製本五冊

午後 図書整理

二月二十六日 水曜

今日も又雪。こんなに隙間なく降られては、つくづく嫌になる、

浜田：図書整理、

◎今晚、市内に大事変あり 首相始め要路の大官死す

二月二十七日 木曜、晴

浜田 図書整理、

学校休業

二月二十八日 金曜、雪日

浜田 図書整理

学校休み

溜池ノ山王ホテル、幸楽を廻って来る、

先生御帰邸なられず

二月二十九日、土曜、曇、

市電、もバスも 円タクも帝へあゝ都に

於けるあらゆる交通機関途絶 (戒厳司令官の指令に依る)

本日出勤者、高木、藤木、五十澤の諸氏、

学校今日も休み

夜、才次にて先生の今度の事変に就いての御話しあり。

三月一日 日曜 曇、

浜田 午後、図書整理

昨、事変解決、不安に閉ざされた市民たちの心に

春が来た、

先生終日御在邸、

三月二日 月曜 晴

夕方振りに天日を仰ぐ、嬉しき限りなし

午前 図書整理

午後、暇を得て、目黒、榎久兄宅訪問

三月三日 火曜、晴、

麗かな初春の候なり

浜田 終日 図書整理(書架へノ分類ト目録へノ転記)

三月四日 水曜日、晴

浜田 図書整理(カードヨリ目録へノ転記ト、

カードの振仮名つけ)

三月五日 木曜 晴

浜田、図書整理(十字屋ヨリノ諸本「カード」作成)

高木さんはアチック二階のアシナカ室へ仕事場を定めて引越す。

図書整理は袖山さん二人になる

三月六日、金曜 晴

浜田、図書整理(台帳へノ整理、目録へノ転記、振仮

名ツケ)

◎本日ヨリ書籍ノ書架別ノ分類モヤル

(従来ハ袖山さんニ任カシテ居タガ、自分ノ無

力サヲ恥ジテ?)

夜学校ハ休ミ(地久節ノタメ)

市川さん高田へ帰省

三月七日 土曜、晴曇

浜田 図書整理、

三月八日 雪、日曜

浜田 日曜で仕事せず

然し、大西さん祝さん藤木さん小松さんの

諸氏は終日勤務

三月九日 月曜日 晴天

浜田、図書整理(書架変更書籍ノ整理ヲナス)

午後四時、米人イーンソ⁽¹⁹⁾ン女史来訪
先生五時頃御帰邸

三月十日 火曜日、晴天

浜田、図書整理 古文書 ノカード作成ト

← 台帳記入

飛脚仲間文書²⁰
平塚宿宛伝馬覚 計九二通

早朝来室者

(土屋、高橋両氏)

三月十一日 水曜、

浜田 図書整理、

祝さん今晚御泊り

三月十三日、金曜、雨天

浜田 昨日(十二日)よりやりかけた製本六十冊、午前

中迄に完成す、

午後、小川さんと三田通りへ行き、空箱を、もって来る、

祝さん引続き御泊り

三月十四日 土曜 晴、曇、

浜田 図書整理 昨日製本した、茨城県各村郷土誌を書

架へ整理

午後三田局へ文索を発送す、

学校試験終る、

林さん⁽²¹⁾郷里へ帰る(夜)

祝さん御泊り、

三月十五日 日曜

先生は終日御在邸、

浜田、午前 文庫硝子拭き

市川さん御帰館、

本日より小野さんアチック勤務

横内さんは才次専属⁽²²⁾、

三月十六日 月曜日

本日より袖山さん二人掛りで、カードの

整理 { 振仮名を全部発音通りニ変更、
そして四月中迄に〈目録〉図書目録出版⁽²³⁾の予定
なり

三月十七日 火曜、晴

昨日に引続いてカードの整理、

三月十八日、水曜、

カードの整理、

三月十九日 木曜日

カード整理

三月二十日 金曜

本日から書架の図書(水産関係ノモノ)とカードとの
照合を始める

三月二十一日 土曜日、曇雨

午前 図書とカードの照合

午後 市川さんと民具問答の読合せ

三月二十二日 晴天 日曜

夜 ミス スミット女史

ミス ホールト女史⁽²⁴⁾ 来たる

ジャバの舞踊を見る

三月二十三日 晴、曇、月曜

終日 袖山さんと、図書とカードの照合 〈漸く終へ
た。〉大体終へた、

三月二十四日 晴、火曜

カードと図書の書架不明とか書架違いとかが、その他の
不備なる点を再調

三月二十五日、水曜、小雨

昨日に引続いて諸整理

三月二十六日 木曜日

浜田 暇を得て〈終日〉目黒の袿久兄宅行く
祝さん御泊り

三月二十七日 金曜、晴

いよくカードを五十音順に整理を始める。

目録作成に取り掛るのも近い内だろう、

祝さん御泊り

櫻田さん、伊豆川さんは本日、土佐室戸へ出張⁽²⁵⁾

二十日間位の予定で、

三月二十八日、土曜、晴、

カード整理

三月三十日 月曜、晴

袖山さんはカード整理

浜田、新入書籍ノカード作成（七〇冊分）

三月三十一日 火曜、晴

カードの整理全く終へていよく本日より目録原稿作

成に取掛る（袖山さん）

浜田は昨日作成セシカードノ原簿記入ト、書架別ノ分類ト、書架別ノ目録ヘノ転記ヲ為ス

先生夕刻五時過御帰邸

山口さんを尋ねて千葉ノ青年木島氏来ル⁽²⁶⁾

四月一日 水曜日 晴

本日より僕も目録原稿作成を始める（浜田）

袖山も昨日に引続き右作成

〈五日〉所要日数五日間の予定なり

四月二日、木曜、曇

昨日に引続き、二人とも目録原稿作成

昨日と今日二日間に亘って「東京人類学会と日本民族学会」⁽²⁷⁾の第一回連合大会あり。

市川さん二日とも出席

夜十時迄小野さんと書生部屋に遊ぶ

先生十一時御帰邸

一時前迄、木内書店より来たりし書籍御調べ

藤木さん今日新島へ出発⁽²⁸⁾ 帰館は四月末

四月三日 金曜、雨

神武天皇祭

先生終日在邸

袖山 浜田 午前中、原稿作成

夜、柏竈社の第四回の総会あり

四月四日 土曜、

先生 銀行御休み

袖山・浜田 終日原稿作成 心あせれど遅々として進行

せず 予定の五日間にはとても出来難い

夕方、テニスコートを掘返してルーラを掛けるつもりで
やったら、とてもうまく行かず

四月六日 月曜日 晴

終日、原稿作成

学校始まる (浜田)

先生終日御在邸 (朝七時に文庫へ)

小松さん御泊り

四月七日 火曜、晴

原稿作成 明日迄には終るつもり、

先生朝七時半に文庫へいらしやつた

為に昨日も今日も文庫の掃除出来ず

四月八日 水曜、曇、夜雨

原稿作成、大体終へる

◎新入本もカードだけにして原簿整理とか書架整理と

かは後廻しにして大スビード^(ママ)で先へと急ぐ

◎塩関係の本も今日整理、目録原稿作成す

小松さん台湾旅行の途につく

四月九日 木曜日 午前小雨 午後曇

昨日までに目録の原稿作成を終へて

今日よりその読合せをなす、

先生朝七時半文庫いらしやる

奥様も九時過ぎに文庫へいらしやる

文庫出勤者

大西さん、山口さん、野澤さん

袖山さんと浜田、以上五名

先生名古屋へ⁽²⁹⁾

四月十日 金曜日、曇

午前 昨日に引続いて原稿の読合せ

午前中に終へて、午後より高木さんに渡す、

浜田 午後より青年館の村上さんへ洋服を届けに行き郷

土舞踊を見て来る

四月十一日 土曜 曇

いくら立派な図書目録が出来ても 肝甚の本がはっきり

して居なくては利用しようとする人にも不便であり 目

録だつて要をなさないと云ふ事からして、本日は袖山氏

二人で在庫書籍（水産ノ書架だけ）に筆録とへ其の他

の〳木版・謄写と云ふ風に全部目印をつけた

筆録（原本・写本 稿本）は赤紙で謄写その他の本は紫

紙で、本の背に貼紙をなす

之ならば幾分、便利になると思ふ

四月十三日 月曜、雨

先生、今朝七時過ぎ名古屋より御帰り、八時過ぎ銀行へ御出でまし。

袖山さん二人、

今まで原稿作成に力を入れたために未整理のまゝの書籍山積、今日からその整理、明日までに終へるつもり

四月十四日、火曜日、晴

昨日に引続いて図書の整理

先生 風邪気味で御帰り早し

四月十五日 水曜 曇

先生御風邪でお休み 午前中文庫

袖山・浜田

平塚宿文書（古文書）の整理、御庭の桜が満開で美しい、

四月十六日、木曜日 曇 夕立アリ
先生 今日も御休み

袖山・浜田

昨日に引続いて平塚文書(帳面類)の整理

土屋先生外数氏来室、

青淵先生伝記編纂⁽³⁰⁾の人々で、関係書籍を集める、

四月十七日 金曜、晴

先生御休み

袖山・浜田

昨日の龍門社⁽³¹⁾の人々が 書庫の書籍三百余冊、持出す
ので、その控記入をやる(書庫にて)

書庫にての仕事は本年は今日始めてなり

伊豆川さん土佐室戸の採訪を終へ、今日御帰り、

浜田 午後二時頃一寸四谷まで行って来る

〔築氏⁽³²⁾奥様死去のため、告別式へ〕

四月十八日 土曜日 午前晴天 午後曇

書庫にて昨日に引続いて整理(袖山さんと)

カードの引出しと、カードなきものの作成、それが出来上れば先生に御目に掛るつもり(つまりどんな本を龍門社の人々が借り出したかと云ふ事を)

先生御休

櫻田御帰り

四月十九日 日曜

袖山さん、一寸、身体の具合悪きため一人書庫にて昨日に引続いて仕事をなす。(午前)

四月二十日、月曜日、晴

今日から文庫も賑はしくなった

出勤者 大西、山口、櫻田、伊豆川、祝、野澤の諸氏、

浜田 書庫にてやる、

午後四時 先生に呼ばれて御病室へ行く

袖山さん御病気

四月二十一日 火曜 晴

浜田 書庫

龍門社の人々が持出す本の「カード」を先生に御覧に入れたので、そのカードに依つて、控帳を作るつもりでやり始めた、明日までには出来るつもり。オ午前ヒルマヅに一寸オ次に坐る。書生さんは今横内さん一人で支障を来たして居る

山田さん田舎へ徴兵検査

松田 逗子

袖山さん 病床

林さん 銀行勤め

午後二時頃、出入の魚屋さんのリヤカを借りて、三田通りから空箱を運び来たる（小野さんと）夜学校より帰りて先生に呼ばれへて行く。先生の用命を受く。

四月二十二日 水曜 曇 時々小雨

浜田 午前書庫にて昨日やり掛けの仕事、控帳作成

十一時頃 先生の許へ行く

午後も午前と同じ 控帳は夕方までに漸く出来終る、

午後三時頃 龍門社の人々が本を取りに来た。

四月二十三日 木曜 曇 南風強し

浜田 終日書庫

藤木さんから頼まれて居た、「木ノ實方(33)」の地名索引カードに依り原稿作成をなす 午後五時迄に出来終る
小松さん台湾旅行より帰られる

先生御病氣御全快、夕刻文庫、アチックへいらつしやる

四月二十四日 金曜、晴

浜田 文庫ニテ「カード」未整理ノ分ヲ整理

午後三時頃 中島製本屋から文献索隠の製本来たる。

同書庫三階へ整蔵す、

先生、朝、文庫へ御見えなる

夜は十二時迄アチック。

小松さん御泊り

四月二十五日 土曜 雨。風強し

浜田 文庫

ずっと前から整理もせずに置いて居た「水産講習所
試験報告」約三十冊をカード作成、原簿記入、目録転記、
書架への整理の順で整理す、
袖山さん病床―：

四月二十六日 晴、日曜

〈御〉午前 文庫の大掃除をなす、

午後は自分の時間へにして

夕刻テニスをやる

袖山さん病へ治ほる。良好、

四月二十七日、月曜、晴

先生、銀行御休み

袖山さん、今日より文庫に見える、

新入庫書籍（水産のだけ）の整理

但シ右は、印刷に廻はされた目録へ追加するため、

目録来たる。

四月二十八日 火曜、曇天

未整理中の平塚宿の文書を今日すつかり整理終へ書架へ
収める。

午前、右帳面類の帙を作る

午後 カードを原簿へ記入して書架番号を定めて収め
る

帙総数十三帙

カード枚数三拾六枚

先生御休み

藤木さん新島の採訪旅行を終へて今日御帰館

四月二十九日

五月四日 月曜 晴天

〈今日は〉書庫二階

今日は織田文庫カードの引合は止めて張さんが積んであ
った同図書を書架をきめて整頓す、(午前)

午後 引続いて二階の旧青淵文庫本の和本を書架に整頓
し、尚、応接室にある和本を全部二階へ運び整頓
す、

之で幾分、二階の書架が整頓されて気持良し。

五月五日、火曜、晴

書庫二階

終日織田文庫本の整理、

カード引出し、カードへ内容記入

其ノ後で、原簿記入

書架ノレッテル貼り

原簿番号記入

◎右の如き順序で毎日整理が繰返へされる

今日整理、カード枚数一五〇枚

此の問のもの合して本日までに全冊数の約五分の一位は整理完了。

五月六日 水曜、曇

例に依り書庫二階織田文庫整理

水産図書目録の初稿来たる

袖山さん午後より右の校正、

五月七日 木曜、午前晴

午後 曇、雨

午前中書庫二階 浜田一人

袖山さん昨日の校正。

午後、袖山さん学校。

浜田、滝之川行き。

五月八日、金曜、晴

終日書庫（二人）二階

織田文庫整理

五月九日、土曜日

終日書庫二階（織田文庫整理）（二人）

水産図書目録の第二稿と初へ橋稿来たる、

吉田三郎⁽³⁵⁾氏才泊り

五月十日 日曜、

午前、磯員・市川氏等と共に民具

（喜界島岩倉氏ヨリノ新着）の整理

午後、テニス 先生もいらしやった。

吉田三郎氏歓迎の意味で夜先生始め同人一同、日本橋の

〇〇屋へ？

吉田さん御泊り

五月十一日、月曜、晴

袖山さんは文庫にて目録の校正

浜田一人書庫二階

(織田文庫の整理)

吉田さん才泊まり

五月十二日、火曜、晴

書庫二階織田文庫整理(二人)。整理が

漸く峠を越えた感あり。

夜市川さん、高田へ帰省。

(小野さんと山を下る)

五月十三日 水曜、晴

終日書庫二階織田文庫整理(二人)

五月十四日 木曜 晴 風強し

目録ノ校正来たる

袖山さん午後より右校正。

浜田終日書庫二階

久しく待つて居た書架のレツテル来たる、

吉田三郎氏本日帰省

五月十五日 金曜、曇

袖山さん文庫(目録校正)

浜田 書庫二階 織田文庫整理

夜雨

五月十六日、土曜

二人とも終日織田文庫整理、

五月十七日 日曜、曇

先生今朝七時御旅行へ(伊豆)

夜七時頃御帰邸、

浜田 二子玉川行き（奄美大島郡人会へ）

五月十八日 月曜、晴

織田文庫整理、

漸くにして、十中八九まで整理完了。

五月十九日 火曜

書架レツテルと台帳番号ノレツテル品切れのため織田

文庫の整理出来ず

久々振りで文庫に仕事す、

浜田 五色石の製本、

五月二十五日 月曜、晴

書庫二階（二人）

四部叢刊の整理

（明日迄ニ終へるつもり）

（民友社へ図書原簿ノ注文ヲ為ス。）

五月二十六日、火曜、曇

書庫二階（二人）袖山さん午後学校行き

四部叢刊の整理、

予定の五日間より一日早くして完了す。

夜、アチックに久保寺氏のアイヌの映画公開あり⁽³⁶⁾

五月二十七日 水曜、雨

午前、袖山さん 才次

浜田 書庫二階の大掃除

午後、二人とも書庫二階

図書整理、

五月二十八日 木曜、小雨

終日、書庫二階（二人）

図書整理（全集もの）

先生 御帰り遅し、

五月二十九日 金曜、晴

久振りに天日を仰ぐ

終日書庫二階（二人）

五月三十日、土、曇、夜雨
書庫二階(二人)

図書整理、

浜田夜、伊豆大島行

先生早朝、東北への御旅行⁽³⁷⁾

(明夜御帰りの由)

〱五月〱六月二日 火曜、晴

書庫二階、(二人) 浜田昨夜帰る

市川さん昨夕より、才腹を悪くして

才次の隣の室に病臥中、

六月三日、水曜、晴

書庫二階(二人)

図書整理

六月四日 木曜 曇 小雨

書庫二階(二人)

図書整理、

六月五日、金曜、

書庫二階(二人) 図書整理

六月六日 土曜、

書庫二階(二人)

六月七日 日曜 晴

アチック及ピオ次の人々の健康診断が午後よりあり

医者は帝大学生の崔さん⁽³⁸⁾外三氏

六月八日 月曜、晴

書庫二階(二人)

図書整理、

六月九日 火曜、雨

書庫二階(二人) 図書整理、

久しく頑張った二階の整理も〱漸く〱大体

に於いて一段落ついた 所要日数二十日間
明日迄には、すっかり完結のつもり

六月十日、水曜、晴 午後曇

書庫二階（二人）図書整理

今日まで掛けて、充分とは云へないけれど

先づ 完了したと云ふて良い

袖山さん午後より私用で新宿駅行き

先生、毎夜御帰り遅そし。

（支店長会 開催中ノ由）

六月十一日 木曜、晴、

書庫二階、

織田文庫未整理の分を、整理、

竹内利美氏⁽³⁹⁾来館

アチックの方々 大半、郊外遠足（八王子付近）

市川さん、夜高田へ帰省

六月十二日、金曜、晴、

書庫二階（二人）図書整理、

すっかり整理済と思ふても、次からくへと未整理の
図書が出て来るので一層、やるべき時に、しつかり、
整理した方が、気持良いとの事で二階の隅々まで再検
査をして、整理？…

之で二階は、名実共に、整理完結となつたわけだ。

次は、一階の整理に移るつもり。

六月十三日 土曜、晴

書庫一階二積マレテアル、アチックの出版物

（アシナカ、村松家、）を、三階へ整理、（小野さん二
人）

袖山さん午後より学校（カッパの才祭）

先生夜富山方面⁽⁴⁰⁾へ御旅行でおへ出立

六月十四日 日曜、晴

増築のアチック⁽⁴¹⁾が建つ。（外形だけ）

六月十五日、月曜、晴

先生今朝御旅行より御帰り。

印刷中の図書目録を少し変更することになった、
仕事 応接室に入庫のまゝ置いてある

〔未整理図書の整理を始める〕

午後、具合悪いため寝る (浜田)

(昨夜の〇〇が祟って?)

六月十六日 火曜、晴

終日 応接室 新入図書の整理

鹿兒島永井氏宛、⁽⁴²⁾「南島誌・^(マシ)沖良部誌」を書留小包にて送る、(午前九時)

気温七六 <気温七六度>

六月十七日 水曜、晴、風強し

終日応接室、新入図書の整理、浜田

袖山さんは文庫にて、図書目録の準備、

先生御帰り遅そし (十二時)

六月十八日 木曜、晴

終日応接室、図書整理、

カード作成 台帳記入・レツテル貼り・等が大体
終った。

六月十九日 金曜、曇、後雨

昨日迄に整理せし図書を全部文庫へ運んで書架別に分類整理す、

之で新入図書もすっかり整理されたわけ。

折角の日蝕が雨のためへフイ〜フイになる

六月二十日 土曜、曇、^{夜雨}后晴、

今日から書庫一階の整理に取掛る

(午前) 〓一通り目を通しただけ

午後、袖山さん私用で出掛ける、

浜田、書庫にて、此の間応接室で整理した新入

図書のカードを「書架別目録」へ転記をなす

夜柏竈社の臨時会が、アチックに開かれる、

六月二十一日、日曜、晴

六月二十二日 月曜、晴

書庫ニテ「書架別目録」ヘカードノ転記ヲ為ス。全部完了

(気温、八八度)

六月二十三日 火曜 晴

今日から本式に書庫一階の図書整理に取掛る、(浜田一人)

袖山さん文庫、

竹内利美氏御泊り。

六月二十四日 水曜、(晴)曇

書庫一階 図書整理、(二人)

袖山さん書庫ニテ雑誌類の整理 全部三階へ上げた、新図書原簿来たる。

夜先生と十二時迄、木内書店より来た図書の調べ。

就寝一時

六月二十五日、木曜、晴、

書庫一階図書整理(二人)

新図書原簿に記入を始めた。

(NO18、301冊より)

先生今朝八時半御出邸

六月二十六日、金曜日、晴、

終日、書庫一階(二人) 図書整理

才午過ぎテニス(へで過)をやる

六月二十七日、土曜、晴

書庫一階 図書整理

袖山さん、午後から、才次

先生 三時前に御帰邸

夜一時まで文庫

六月二十八日 日曜 雨

先生終日御在邸

夜は今夏朝鮮行⁽⁴⁾の学生達の集ひあり

六月二十九日 月曜、雨

袖山さん 書庫Ⅲ

浜田Ⅱ文庫 熊本県漁業誌外一点

計三冊の製本をなす

昨朝先生から指示を受けた「まびき」

関係の図書を集める

六月三十日 火曜 雨

書庫一階

今日から洋書整理始めた 既製カードの引抜き

七月一日 水曜 曇

終日書庫一階

洋書の整理、カード引出し

七月二日 木曜 雨

終日書庫一階

洋書整理 カード引出、漸く終はる

市川さん高田へ帰省

夜先生は袖山さんから図書整理の状況を聴取された(アチック)

七月三日 金曜、曇

終日書庫一階図書整理

昨年中止へしたして居た図書の整理、

七月四日 土曜、晴

漸く御天気となる

終日書庫一階 図書整理、

七月六日 月曜、雨

又雨となる

袖山は昨日 私用で(群)群馬県行き(明日帰る予定)

浜田終日書庫一階図書整理、

七月七日、火曜日 晴曇

浜田終日書庫

午前、新入図書の内水産関係ノモノ丈カード作成

午後。各書店ヨリノ送り状ヲ整理ス

袖山さん群馬より帰る

七月八日 水曜、

書庫一階 図書整理

宮本さん朝鮮旅行⁽⁴⁴⁾の途につく

七月九日

書庫一階

七月十日、十一日、

書庫一階 {アチック増築
工事竣工}

先生、村上さん新潟方面へ御旅行⁽⁴⁵⁾

十二日夜御帰り

七月十三日 月曜、雨天

書庫一階 (二人) 終日

一階の整理漸く終了す、

七月十四日、火曜、晴

本日より母屋の図書整理に掛る、

終日オ次の廊下の整理、(完了)

市川さん高田へ帰省、

七月十五日 水曜 晴

御書齋及び廊下の書架を定めて番号レッテルを貼った。

(浜田)

袖山さん (水産図書目録の初稿来たりしたため校正)

七月十六日、木曜、晴

袖山さん、昨日に引続いて校正、

浜田、廊下の整理、

母屋の図書は、大抵カード

が出来て居るので、仕事としては

主に、そのカードを引抜いて

書架番号記入 なり、

七月一七日 金曜、

終日 食堂の一隅を借りて廊下の図書整理(二人)

暑気、いよ／＼厳しい(九一度)

先生御帰り早やし(五時過ぎ)

御客さんあり、

小松さんは、十日頃から病臥中の由、

七月十八日 土、晴

終日御書齋の廊下の本、整理、

七月一九日 晴、日曜

午前 文庫の硝子窓拭き

先生午後から、保谷村へ御出掛け⁽⁴⁶⁾

夜十一時頃 御帰邸、

七月二十日、晴、月曜、

今日も廊下の本整理、

今日までに廊下はすっかり終った。明日から御書

齋へ移るつもりだったが先生が一応、御調べなら
れるとの事で中止、文庫へ引揚げた。
明日から、文庫でやるつもり。

防空演習始る

七月二十一日 火曜 晴

今日より文庫にて執務、

袖山さんへ貸出図書

図書貸出帳作成
目録ノ校正

浜田 新入図書ノ整理、

むし暑き 宵の眺めや

超然書塾。

七月二十二日 水曜、晴

袖山さん 目録校正

浜田 文庫ニテ図書整理

市川さん今朝帰館

七月二十三日 木曜、晴、風あり

終日文庫（二人）

早川さん御泊り

七月二十四日、金曜、朝雨

終日文庫、（二人） 午後 晴

図書整理、

夕刻、テニススコートの手入をなす、

防空演習終る

小川さん朝鮮旅行の途に就く（夜十二時）

七月二十五日 土曜

文庫ノ図書整理

ビルマの民具到着

先生夜一時半まで文庫、

各書店ヨリノ本調べ

七月二十六日 日曜、晴

午前アチック二階の大掃除（小野さんと）

夜 柏竈社で市川さんの送別会あり⁽⁴⁸⁾

五十澤さん小山町へ転宅

七月二十七日 月曜、晴

午前、テニス（横内さんと）

午後 図書整理、（文庫）

七月二十八日、火曜、晴

文庫図書整理

七月二十九日 水

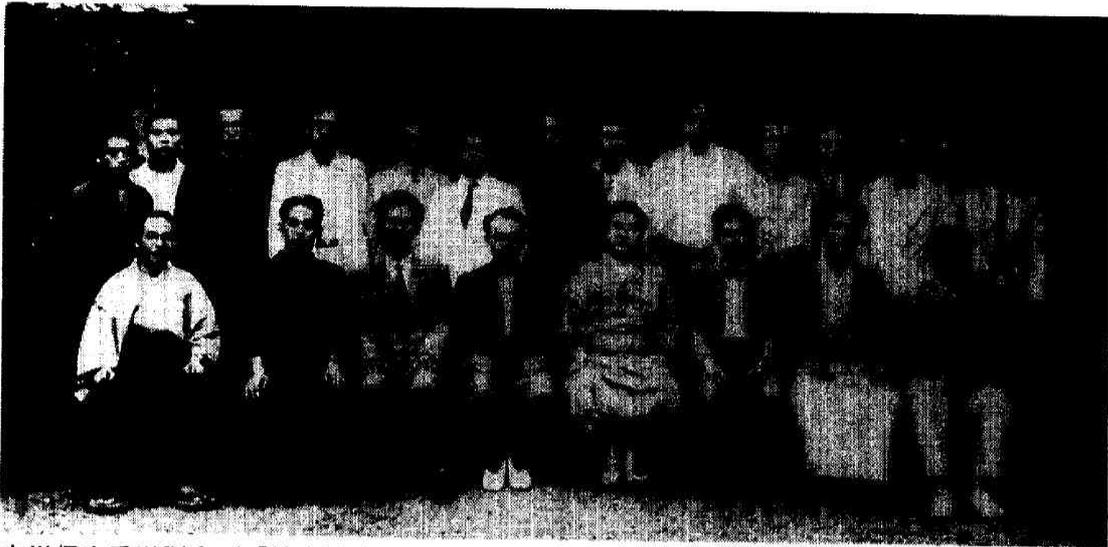
市川さんの送別会あり

（アチック同人にて）

七月三十日 木 晴

市川さんの荷物の（荷）発送準備を手伝ひす、

市川さん、今晚九時の汽車で一年九ヶ月のアチック



市川信次氏送別会（『柏窓拾遺』より複写）

右より前列 磯貝勇、櫻田勝徳、高橋文太郎、澁澤敬三、市川信次、早川孝太郎、祝宮静、藤木喜久麿。後列 山本二三丸、野澤邦夫、高木一夫、村上俊順、五十澤二郎、伊豆川浅吉、袖山富吉、大島久雄、村上清文、浜田国義、山口和雄、小野若木、林友英、村田義家。

生活から別れをつけて、高田へ御帰省

みんなで上野駅まで見送る。

才郎は御同族会あり

先生は図書整理の事に就いて袖山さんと打合せあり、

夜十二時過ぎ

要点、

一、書架別の目録をルーズリフ式の帳簿に整理して利用

したら良いだろうと

一、水産以外の、社会経済に関係ある書の目録は、五十

音順に分類したらどうか、と

七月三十一日、金曜 晴

図書整理（文庫）

袖山さん校正、

（八）
へ七月二日 八月一日 土

前日に同じ

先生箱根行かれる⁽⁴⁹⁾（午後）

八月二日、日曜

先生夕刻箱根より御帰邸

夜二時までオ茶の間で村上さんの送別会（書生さん二藤木 五十澤氏参加）

八月三日 月曜、曇

文庫

村上さん夜十時の汽車で朝鮮旅行の途につく

八月四日 火曜 曇

午前 文庫図書整理

午後は、ブラ〜

夜先生から「田舎(ママ)を行って来い」との、それはく

もう なんと云つて良いやら分らない

程の、有難い御言葉を賜つて只感泣した。

八月五日 水曜 晴

島へ行けると思へば仕事手につかず、

明晩離京のつもり

八月六日、

島行きヒルの準備 オ午過ぎ銀行行つて先生にオ会ひす。
晚十時東京駅発

【この間記載なし】

八月三十一日

朝八時半

先生一行朝鮮旅行より御帰り（小生 今朝帰京）

九月一日

九月二日 水曜、曇

図書貸借證ノ謄写刷をす、

田舎ヨリノ民具届(51)ク、

先生へ島行きキの報告をなす、

朴さん御泊り

九月三日 曇 夜大雨

浜田横濱行(私用)

朴春錫氏⁽⁵²⁾アチックの人となる

九月四日 金曜 曇 夜雨

袖山さん文庫

浜田 書庫ニテ図書整理

文庫に「図書借覧申込函」と用紙を備へ付ける

一ヶ月振りに テニスをやる

夜は、一時まで先生は、文庫にて木内書店より入った図書調べ。

九月五日、土曜、

朴さん来たりしたために アチックの一階の押入と、二階の村上さんの室の整理をなす、

九月八日

夜 鹿児島島の永井先生来館

九月九日 水曜 晴天

午前 書庫に図書整理

午後 田舎へ民具寄贈の礼状発信準備(二十一通)

九月十日 木曜 晴

文庫ニ図書整理、

九月十一日 金曜、晴、風アリ

図書整理(文庫)

午後 山口さんの文書の読合せを

御手伝ひす

書架別目録ノ用紙(ルーズリフ式) 民友社ヨリ来タ
リシモ へ不備 印刷不正ニ付キ、再注文ヲナス、

九月十二日 土曜

文庫ニ図書整理、(午前)

九月十三日 日曜

九月十四日 月曜、晴

文庫二図書整理、

山口さん夜の汽車で富山県へ旅行⁽⁵³⁾

朴さん風邪気味で病臥中（今朝ヨリ）

九月十五日 火曜 晴

文庫ノ図書整理（新入図書）

朴さん具合良し

オ祭りが方々に始まる

袖山さん今日より学校始まる（午後）

九月十六日 水曜日 晴

文庫旧カードの振仮名つけ

夜 アチックの集ひあり

九月十七日 木曜、曇

昨日に引続いてカードの仮名つけ、

マンスリー一五号出来て来る

夜先生の御帰り十二時過ぎ

九月十八日 金曜、晴

文庫で旧カードの仮名つけ

袖山さんも只今カードの整理中

以前に民友社に注文せし、図書カードが未だに出来ず、先日より交渉中のところ相手は、送附済と云ふし、当方は受取った覚えなし、兎に角、今のところ不明なり、

九月十九日 土曜日、曇雨へ晴

今日も文庫でカードの振仮名つけ漸くにして終る

越後の富永氏⁽⁵⁴⁾（熊狩り人）お泊り

先日来交渉せし図書カード、アチック二階に発見

九月二十日 日曜、

来館へ来ゝ者なし、宮本さんだけ

先生終日御在邸

九月二十一日、月曜、雨

昨夜、先生へ先日先の^イの命に依る木内書店の購入決定

の図書(既に入架済)を出架して取揃へる、(先生がもう一度調べるため)

その後 新入図書の整理、

磯貝さんに島の星の事を話す、

先日出来た図書カード、本日開封して見るに用紙が余りに薄いので再注文

九月二十二日 火曜 曇

文庫 新入図書整理

民友社より書架別目録の台帳届く

(之の完結に当分 全力を注ぐつもり)

九月二十三日 水曜 晴

秋季皇霊祭 仕事休む

先生終日御在邸

夜は、朝鮮旅行の方々の集ひあり

九月二十四日 木曜、晴

秋晴れの好天気、

本日より書架別目録帳の記入開始(二人)

九月二十五日 金曜 晴

書架別目録の記入

(一日、カード一五〇枚記入)

九月二十六日 土曜、

書架別目録へノ記入(第三日目)

九月二十七日 日曜 雨

休業

先生 終日 御在邸

九月二十八日、月曜 晴

引続き、書架別目録の整理

山口さん富山県氷見探訪旅行より帰館

九月二十九日。火曜。曇天。

今日も書架別目録の記入

夜 御同族会あり

野澤さん御泊り

九月三十日、水曜、【渦巻きのような絵の落書きあり】
起床 五時半

今日も書架別目録台帳へ、カードよりの転記

十月一日

暇を得て目黒榎久宅行き（浜田）

十月二日 金曜 曇雨 暴風の警報有り

書架別目録台帳の整理

十月三日、土曜、嵐、大雨

書架別目録台帳の整理、大体終る（文庫だけ）

十月四日 日曜

学校の選手として、テニスの試合に出る、準決勝で敗れる

植木屋さん⁽⁵⁶⁾脳溢血で倒れる

十月五日 月曜、

村上俊順さんから依頼された地名索引（奄美大島の部）⁽⁵⁷⁾カードの振かなつける
小松さん本日より出勤、

十月六日 火曜、晴

十月七日 水曜、

新入図書の整理、（井上ヨリノモノ）⁽⁵⁸⁾

新図書カード来たる（民友社）

先生近頃御帰り遅そし

十月八日

十月九日

先生 夜一時迄木内からの本調べ

十月十日

カード整理

専修大学の弁論会へ行く

夜、石黒忠篤⁽⁵⁹⁾氏御夫妻来館

盆踊りや、民具を御覧に入れる

十月十一日 日曜、

午前 文庫にて先生と、各書店よりの本 調べ、

先生終日御在邸

夜、二ノ橋付近に大火ありて大騒ぎした

新しし書生さん二人⁽⁶⁰⁾来たる

十二日、月曜

図書整理、

十三日 火曜 一日中大雨

新入図書の整理 (カード作成)

(小野さんと口論)

十四日 晴 水

新入図書整理 (カードより台帳記入)

十月一五日、木曜、晴

新入図書の整理 (書架決定)

先生の御帰り遅し (夜十一時)

村上清文、高木、五十沢、三氏⁽⁶¹⁾才午頃⁽⁶¹⁾出発、高田方面
旅行

十月十六日、金曜、晴

先生、埼玉へ御旅行⁽⁶²⁾、今晚御帰りなられず

十月十七日 土、曇

神嘗祭で 誰も見えず

先生夜十二時頃旅行より御帰り

十月一八日 日曜、雨

午前、旧アチックにて磯貝さんと大島から採集して来た
民具の整理

先生午前

午後 在邸、

十月一九日、月曜、終日雨

新入図書の整理（カード作成）

小野さん風邪で休み

五十澤さん 高木さん

旅行より御帰り

先生 京都へ御旅行⁽⁶³⁾

十月二十日 火曜、雨、夕刻より晴

図書整理（カードより書架別台帳への転記）

袖山さん柏竈原稿の整理、

図書整理が閑散になる、

十月二十一日 水曜、晴

先生 朝、京都より御帰り

奥は大掃除始まる

早朝日本橋を行って来た、

十月二十二日 木曜、晴

十月二三日 金曜、晴

本日より水産図書カードの書架別

目録台帳転記を始める

本日整理枚数一五〇枚

夜 山口さんの永見^(ママ)の漁業調査報告⁽⁶⁴⁾アリ

靖国神社例祭日（学校休ミ）

十月二十四日 土曜、

書架別目録帳記入（水産）

十月二十五日 日曜

午後から、暇を得て、上野へ山本さんの病気見舞に行

く（小野さんと二人）

先生終日在邸、夜御出掛け

●十月二十六日 月曜、雨

新入図書の整理

中島製本屋ヨリ製本済の本来たる

十月二七日 火曜 晴

図書の整理

夜先生の御帰りは 十二時過ぎ

奥様雅英様、上高地の御旅行より御帰り

十月二八日 晴 水曜

大阪市南区高津三番丁〈町〉三一

宮本繁⁶⁵殿宛、郵便小包送付

◎前畧、御送付の書物の内左記之分

本日郵便小包にて返送仕候間御査収

被下度 此段通知仕候 早々

一、新潟県管内水産小学 上、下、附図 三冊

一、第一回農事講習会日誌(鳥取県) 日野 一

一、水産博覧会用ビラ(明治十六年) 一葉

以上

夜同族会あり

夕刻病のため入院

【浜田入院のためか、この間記載なし】

十一月五日

退院

十一月八日：林先生の健康診断あり

十一月九日

本日より仕事始める、(午前中)

袖山さん書庫のカードを書架別台帳へ転記を始めた

十一月十日

新作カードを書架別台帳へ転記

以前入庫せし井上書店の本(整理済のもの)を出し、

先生に再調べを受く

十一月十一日 水曜 曇

新入図書の整理

今晚より学校行く

十一月十二日 木曜、

〈図書の整理〉

午前 病院行

午後 川崎市行き (先生への土産物取りに)

十一月十三日 金

休〈休〉み 学校も休む

十一月十四日 土

休み 学校も休む

十一月十五日 日曜

十一月十六日 月

終日 書庫にて袖山さんと雑誌の整理をなす

午前…三階へ雑誌類を運ぶ

午後…三階にて右の分類

学校休む

十一月十七日 火

袖山さん今朝 郷里へ亡母の命日で御帰り、帰京は二十

二日頃

柏竈雑誌⁽⁶⁶⁾第三号出来て来た

今晚より学校行き

十一月十八日 水曜

午前…アチックにて田舎から採取して来た民具のカー

ド整理

奥では才次の部屋の大掃除

大掃除終る

十一月十九日 木 雨

新入図書カードを原簿へ転記木内より書籍(約三百

冊) 来たりし為 先生夜二時まで文庫にて御調べ

十二月⁽⁷⁷⁾二十日 晴 金曜

就寝二時半

十二月二十一日 晴 土曜

木内よりの本調べ

先生始め同人達の三面旅行は中止になる

十一月二十三日

袖山さん郷里より帰京

浜田 二十二日より二十七日迄眼病のため仕事休む

二五日

十字屋村田さん泊り

杉浦書店よりの鯨絵巻物、返へす

十一月二七日：朴さんと神田行

十一月二八日 土曜

先生に、山口、桜田、伊豆川、村上、宮本の諸氏は越後
三面へ御旅行

三十日朝お帰りの予定

浜田 図書整理、

午後 柏竈雑誌の記事挿入(村上さん)を手伝ふ

柏竈第三号発送す、

十一月三十日 月曜

先生一行 三面旅行より早朝御帰り

仕事 袖山さんと新入図書の整理

マンスリー第十八号出来る

夜御同族会あり

十二月一日 火曜

木野内正巳氏 今晚 死去す、

図書整理(午前)

午後から横浜行き(南洋行一行を迎へに)

十二月二日 水曜、晴

午前 図書整理(新入図書の書架決め)

午後 目黒行き(為盛兄一行と語る)

袖山さん雑誌類の帳面記入整理

十二月三日 木曜、晴

午前図書整理 (新制カードを書架別台帳へ転記ス)

午後山口さんの校正の読合せを手伝ふ

次井さん^(兄)才泊り

松田さんと、

十二月四日 金曜、晴

図書整理 (昨日に同じ)

袖山さん書庫の雑誌整理

先生才午過ぎに御帰邸

(才復^(才)を悪くなさった為ださう)

次井さん才泊り

十二月五日 土曜 晴

先生福島県へ御旅行^(兄) (銀行ノ御用デ)

木野内氏の告別式の日

十二月六日 晴 日曜、

シユミット女史来たる

先生 夜七時過ぎ旅行より御帰り

御書齋にて十二時半まで五十澤さん袖山さんと栗氏

魚譜^(兄)の絵巻物をお調べ (木内書店よりのもの) 僕も

お手伝ひをす。

十二月七日 月曜 晴

書架別目録台帳へカードよりの転記をなす (水産)

(但シ^(兄)へ以前^(兄) 図書目録へ記載済のカード)

袖山さん雑誌の整理

十二月八日 火曜、晴

昨日に同じ 書架別台帳 (水産) の整理

十二月九日 水曜、晴

引続いて書架別台帳 (水産) の整理

夜御書齋にて先生、藤木さん五十澤さん此の間の栗氏魚

譜絵巻物お調べ

全部調べ終へる 十一時迄

総数二十二本の内四本だけ 文庫の「栗氏魚譜」に記
載なきが解る

十二月十日 木曜 晴

書架別台帳の整理(午前)

夕刻 柳宗悦氏⁽⁷⁴⁾外六名来館

十二月十一日 金曜、晴 夜雨

大阪 宮本繁氏へ書籍ノ代金

九円五十銭 振替送金ス(田島さんより)

夜古野さん⁽⁷⁵⁾早川さん お見えなる

先生の御引揚げ一時なり

十二月十二日 土曜日

十二月十三日 日曜

夜先生から来春学校卒業に就いてのお話しあり

十二月十四日 月曜、晴

袖山さんと神田行き

先生夜十二時迄文庫、書籍御調べ(靴下を載く⁽⁷⁶⁾)

十二月十五日 火曜 晴

午前 図書整理、

十二月十六日 水曜 晴

新入図書の整理

夜 民具の会あり

十二月十七日 木曜、晴

新入図書の整理、

台帳番号、二〇、五二九に至る

the fishes of north and middle

⁽⁷⁷⁾
Amirica part 1-4 4冊

Report of the U.S.A.

Commissioner of fisheries 1 串

外二、鮮満動物通鑑、

朝鮮読本

支那古研展々観

以上五点計八冊御書齋へ整理す、

夜学校休み・五十澤さんからいろいろお話しを承る。

朴さんと ウドンを食べに出る (十二時)

十二月十八日 金、晴曇

午前 図書整理 (カード転記)

午後 慶應図書館行き

索隠用―五十澤さんの依頼を受け、大百科辞典の船

遊亭扇橋二世の部を⁽⁷⁶⁾抜写し三時過に帰って来た。

風は強けれど 寒さ<暑>の一寸も感じられないむしろ

夏の如き御天気でした

十二月十九日 土曜、雨

午前後、新入図書の整理

学校修了式 あり

十二月二十日 日曜 雨

新潟の前田さん⁽⁷⁷⁾来たる

夜 アチックの日本間で

晚餐 先生、藤木、小松、五十澤

前田の諸氏 (猪肉)

夜になり初雪となる、嬉し、(芝園館行き)

十二月二十一日 月 終日雪

新入図書整理 (午前)

午後 書架別台帳の整理 (水産カード)

十二月二十二日 火曜、晴

午前、書架別台帳整理 (水産カード)

午後、芝区役所行き (五十澤さん用)

夜年賀状準備

(次郎さん⁽⁷⁸⁾の母堂死去の由)

十二月二十三日 水曜 晴

午前午後書架別台帳整理(水産カード)

袖山さん:書庫のカード全部書架別台帳への転記終る

今度はカードの分類、

夜 先生、村上さんは磯貝さんの御宅へ

十二月二十四日 木曜、晴

終日 書架別台帳整理 水産カード

(今日五〇九五の書架を済ます)

十二月二十五日 金曜晴(大正天皇祭)

午前八時先生文庫にお見え

木内書店からの本をお調べ

九時半頃 お出邸、

浜田:各書店の送り状の整理をなす、

磯貝さん夜九時の汽車で大阪へ⁽⁷⁹⁾

十二月二十六日 土曜、曇

午前:芝区役所行き

午後:書架別目録整理

(水産カード) 五〇九七

五〇九八

十二月二十七日 日曜 晴

アチックの一階 二階と文庫の窓硝子拭き(一日中)三人で

十二月二十八日 月曜日 晴

旧十一月十五日

図書の整理(袖山さんも)

夕刻先生のお机の上を片附ける

未整理の本、多数出たれど来年度へ廻はす

文庫の方々今日で仕事終る

十二月二十九日 火曜、晴

午前後

袖山さんと残務整理、今日を以って図書整理の今年の仕事を終わりとす、

文庫皆休み（小松さん一人来庫）

磯貝さん大阪よりお帰り

夜お同族会あり

門松や、玄関のお飾りが出来る

十二月三十日 水曜日 快晴

午前 文庫の大掃除（袖山さんと）

午後 五十澤さんと銀座へ買物に

夜 民具の会⁽⁸⁰⁾あり

先生、お帰り七時前、九時頃又お出掛け、

御親戚にお不幸があつたそう

（大川平三郎⁽⁸¹⁾氏）

十二月三十一日 木 晴

アチックの大掃除（三人で）

午前 二階の各室

午後 一階

夜の七時頃までに終る

先生の御帰邸 一時過ぎ

註

- (1) 藤木喜久麿。「芳名簿」から、昭和三年六月二八日開催の「アチック第二回例会」から参加していることがわかる。「櫻田・荒井」によれば、藤木がアチックへ顔を出すようになったきっかけは、若い頃に早川孝太郎と共に洋画を学んだことによるという。藤木は郷土玩具の製作を得意とし、また絵もよくし、骨董品へも目が利いたという。郷土玩具研究から大きく方針を転換したアチックにおいては「八丈実記」の写本の制作や古文書の筆写などを担当した。
- (2) 「旅譜」によれば、澁澤は大阪民俗談話会に出席している。
- (3) 「旅譜」によれば、澁澤、古野清人、村上清文、木川半之丞、市川信次らは直江津へ行っている。
- (4) 敬三とは、二高からの友人で、当時、北海道帝国大学理学部教授であった。やはり二高の友人・宮本璋と鈴木、敬三の三人が、お互いに幼少時からの蒐集品である植物標本や化石等を、澁澤家物置小屋の屋根裏に陳列したのがアチックのはじまりとなる「澁澤 1933」。
- (5) 詳細不明。
- (6) 「マンスリー」八号に次のような記事がある。「一月廿六日内浦史料部の会合があつた。永正より承德迄を出版する為めの準備の故にである。種々な事柄が論議せられた史料は成可く載録する事又史料は年号順に配列するがお葉園、朝鮮使来朝関係文書は別に項目を設ける。史料の目次に内容説明を附す語彙は史料の番号のみ誌して頁はつけぬ。又印刷は四月より掛るといふ事柄が決定された」。
- (7) 「マンスリー」一三号に内浦史料編纂の関係記事として「なほ帳面類の書写は小林・柿界両君によつて案外進行した」とあるも、詳細不明。
- (8) 詳細不明。
- (9) 東京・本郷東大赤門前にあつた古書店。「銀魚書窟」の雅号をもち、澁澤敬三、土屋喬雄らがよく利用していたという(金文堂書店店主談)。
- (10) 澁澤家の書生部屋、女中部屋にいた人々とアチックのメンバーも加わつた敬三を囲む親睦会。柏竈という名は敬三の命名で、同じ竈の飯を食うの意(柏は澁澤家の家紋)。「後年字が面倒として柏窓会と改名」(「拾遺」)。

- (11) 石坂由三。澁澤家書生から東京貯蓄銀行へ入行。「マンスリー」によれば、この二月、東京貯蓄銀行京都支店へ転勤になった。
- (12) 東京・神保町にある書店。当時、古書店を営み、昭和二〇年頃まで、澁澤家によく出入していたという（現・店主談）。
- (13) 山口和雄氏は二月四日から一日まで千葉県九十九里浜に調査のため滞在し、地引網関係の史料などを借用してきたという（「マンスリー」八、九号）。
- (14) 大西伍一。「マンスリー」八号にも「大西伍一氏来館（同氏は本日から漁民傳編纂のため出勤される由）」とある。のちに『日本漁民事略』として出版された漁民傳の編纂事業を初期段階で担当。「マンスリー」一〇号には「大西氏の漁民傳研究も既に約三百人の調査を完了して居る」とある。
- (15) 詳細不明。
- (16) 水産伝習所を前身として、明治三〇年に農商務省管轄となった水産講習所（現・東京水産大学）の刊行物。明治三二年に一卷一冊が刊行。
- (17) 「マンスリー」八号に「二月十三日 村上清文氏が主任で青年団郷土資料室に開催された「スキーとカンジキ」の展覧会（自十日至十六日）出品民具の撮影のため宮本馨太郎、木川半之丞両氏出張。」とある。村上清文は昭和一〇年九月より日本青年館に勤務していた。
- (18) 民具問答は、昭和一二年五月に『民具問答集』（ノート第一）として刊行されることになるが、本来は刊行を予定していたアチック蒐集民具の図彙の附録として企画されていた。澁澤による『民具問答集』「まへがき」によれば、民具ひとつひとつの解説を、アチック側ではなく民具寄贈者あるいは使用者自身に書いてもらい第一次資料とすべきだとの結論から、寄贈民具の写真を種々の質問と共に寄贈者に送りその回答を得る、という方法をとった。結局、図彙の刊行が困難となる中、集まってきた回答を主とし写真を小さくして挿入し『民具問答集』というかたちで図彙に代えることとなったという。「マンスリー」八号に「村上清文氏によつて編輯を了した『民具問答集』が市川信次、横内正直君によつて鋭意出版のため整理中である」とあり、日誌の記事はこの刊行にかかわる下原稿作りではないかと思われる。
- (19) 「マンスリー」にM・イーソン女史とあり。詳細不明。

- (20) 現在、国文学研究資料館史料館所蔵となっている「祭魚洞文庫旧蔵史料」のなかに「相模国平塚宿問屋文書」四点(二〇通)があり、これらと関わりがあるものと推測される。
- (21) 林友英。澁澤家書生と思われるが詳細不明。
- (22) 「小野さん」は小野若木のこと。「マンスリー」一一号に「山梨県出身」とある。昭和一〇年一〇月九日に書生としてアチックにはいった横内正直は一一年三月九日「お次」の書生となり、代わって小野がアチック書生となった。
- (23) 『祭魚洞書屋図書目録』一、二として昭和一三年に出版されている。
- (24) 「マンスリー」一〇号に「三月廿二日 ホールト女史スミット女史と来館 ジャバの舞踊を幻燈を用ひて解説し実演す」とある。
- (25) 「マンスリー」一〇号に「伊豆川、櫻田の両氏は去月末から四國に舊漁業を尋ねて歩くかれてゐたが、此十七日無事帰京された。採訪の中心は室戸の舊鯨・鯉釣漁、四萬十川の漁業、宇和島に於ける鯉船引網漁業等である」とある。
- (26) 「マンスリー」一〇号に「木島栄一氏来訪」とあるも、詳細不明。
- (27) 「マンスリー」一〇号に「東京人類學會・日本民族學會第一回聯合大會に於て高橋文太郎氏は「山の神秘解明の要點」を、村上清文氏は「越後三面村三面の映画」を、市川信次氏は「高田市の警女に就いて」を発表す」とあり。
- (28) 「マンスリー」一〇号に藤木からの手紙が掲載されており、そこから、強風のため一週間近くを大島や式根島での滞在で余儀なくされ、なかなか新島へ到着できない様子が伺える。
- (29) 「旅譜」によれば、名古屋から岐阜、関ヶ原を経、醒ヶ井養鱒場から大垣、名古屋を経て帰京している。同行者は甘泉豊郎、有川金吉。
- (30) 『澁澤栄一伝記資料』編纂のこと。財団法人龍門社による澁澤栄一の伝記編纂・刊行事業は、幸田露伴(伝記執筆)、幸田成友(伝記資料の蒐集編纂)に依頼され、昭和七年から一〇年一二月まで実施された。引き続き一一年四月から土屋喬雄が主任となり、編纂は継続された。最終的に昭和四六年、全六八巻で完結。
- (31) 澁澤栄一郎に寄宿していた青年のための勉強会(尾高惇忠が指導)に端を発する。栄一の主張する「経済道徳合一主義」にまとづく経済道徳の高揚を目的とした財団法人。当時、澁澤栄一の伝記編纂事業を実施していた(註(30))。

(32) 詳細不明。

(33) アチックミュージゼム彙報第一〇として昭和一一年刊行された「木實方秘伝書（雲藩榎樹植林製蠟手記）」のこと。藤木喜久磨が翻刻を担当した。同書は巻末に語彙解説と共に地名索引が添えられており、地名索引を浜田が担当したことがわかる。

(34) 青淵は澁澤栄一の雅号。青淵文庫は栄一の旧蔵書。

(35) 秋田県富永村の農民である吉田が大西伍一の勧めで書いた郷里の民俗誌を澁澤が見て、アチックよりの刊行が決まった。さっそく澁澤はじめ石黒忠篤、高橋文太郎などアチックメンバーは昭和九年九月、吉田を訪ね、民俗誌は昭和一〇年三月、『男鹿寒風山麓農民手記』と題してアチックミュージゼム彙報第四として刊行された。日誌の記事では、上京し五月九日から十四日までアチックに滞在している。「マンスリー」一一号によれば、「この國の何處にもその類例を見ない特殊な形態の基に存在せる吾がアチック、ミュージゼム其處には新しい人間道徳の温かさが流れて居る……」という吉田からの手紙の一部が紹介されている。

(36) 「マンスリー」一二号に「五月二十六日（中略）夜、久保寺逸彦氏のアイヌ民俗の映畫あり同人の他に古野清人、八幡一郎両氏も来會」とある。また日誌への記載はないが久保寺逸彦は五月三日（知里真志保と共に）、二二日にもアチックを訪れている。五月二六日の「アイヌ映畫」の内容は不明であるが、『民族学研究』第一卷第三号（昭和一〇年七月）に、日本民族学会・東京人類学会等共催のウイルヘルム・シュミット講演会において「東大、人類学教室の保管せる映畫「白老部落（しやうらうぼく）に於けるアイヌ生活」を久保寺逸彦氏の説明を附して映寫した」とあることから、関連が推測される。

(37) 「旅譜」「マンスリー」には記載がなく、詳細不明。

(38) 崔應錫。当時、東京大学医学部学生で、「マンスリー」九号によれば、昭和一一年三月六日、八日にもアチックを訪問している。同年八月に実施された朝鮮蔚山の医学調査（この医学調査中にアチックメンバーが同地を訪れ調査を実施した。註（43）参照）に、崔應錫も参加している「マンスリー」九号、「澁澤 1939」。

(39) 昭和のはじめに長野県上伊那郡の小学校に勤務していた竹内は、民俗学に関心を持ちながら小学校教育に取り組むなかで、昭和八年『小学生の調べたる上伊那郡川島村郷土誌』（正統二篇）を手刷りの謄写印刷でつくった。これが澁澤の知るところとなり、昭和九年、彙報二（正篇）、七（統篇）として刊行された。その後、昭和一五年に教職を辞して上京し、同人としてアチックの研究を担いながら、國學院大学に通った。

- (40) 「旅譜」「マンスリー」一二号によれば、澁澤の他、高広次平、市川信次、高橋文太郎、磯貝勇、宮本馨太郎一行が、富山県の中新川郡白萩村東種にアワラの田植を見学に行ったことが判る。なお「マンスリー」一二号には市川信次の筆になる「源(アワラ)の田植」と題する報告が掲載されている。
- (41) 「マンスリー」一二号によれば「アチックの南側に民具の整理室が増築中である。諸兄が之の記事を読まれる頃には既に出来上がって居ると思ふ。今後到来の民具は總てこの室で整理され研究されるのである」とある。
- (42) 永井竜一のこと。鹿児島県庁、奄美大島の大島支庁などに勤務しながら「南島雑話」等、十島に関する文献をいくつも出版するなど、十島に注目し心を寄せていたという「櫻田 1979」。永井は昭和九年五月のアチック十島旅行に参加しており、以来交流があったものと思われる。なお、「マンスリー」一六号には、「(八月)二十七日 永井龍一氏来館」とあるが、日誌にはその記載がなく(おそらく日誌書き手の浜田が帰省中だったため)、九月八日来館の記事がある。
- (43) 昭和十一年八月に、朝鮮半島の蔚山邑達里と多島海を巡った調査旅行。澁澤、高橋文太郎、櫻田勝徳、磯貝勇に、先発していた宮本馨太郎、小川徹、村上清文が加わった。短期間の調査であったが、その内容はノート第一五『朝鮮多島海旅行覚書』として刊行された。
- (44) 前掲註(43)。
- (45) 「旅譜」にも「マンスリー」にも関係記事なく、詳細不明。
- (46) 東京都北多摩郡保谷村(現・東京都西東京市)のこと。この年に澁澤は同人・高橋文太郎と諮り、保谷に一万坪の土地を得、民族学会に寄贈、博物館建設を目指した。
- (47) 前掲註(43)。
- (48) 市川信次の送別会は柏竈社(七月二六日)とアチック(七月二九日)によってそれぞれ開かれている。「マンスリー」一三号によれば「市川氏は郷里高田市で中央電気會社の三十年史編纂を嘱託され七月三十日退館せられる」とある。また一四号には「あれ程なつかしんだ故郷へ帰つて来ながら澁澤先生を想ひアチックを想ふ心にひかれてか、故郷には全く空虚な心持しか感じられません」という市川からの手紙が載せられている。
- (49) 他に記載なく詳細不明。

(50) 村上さんは村上清文のこと。「マンスリー」一四号に「村上氏は八月三日朝鮮民俗研究の爲め約一ヶ月の豫定にて出發された」とある。

(51) 「マンスリー」一六号に「浜田君が奄美大島の民具を数十點」とあり、浜田が帰省先から民具を送ったことがわかる。

(52) 「マンスリー」一七号の「柏竈社 消息」欄に「朴春錫氏（朝鮮慶尚南道蔚山郡蔚山邑達里）八月三十一日よりアチックへ」とあり、朝鮮調査との関わりでアチック入りしたものと思われる。また一六号には「尚今後朴春錫君が民具整理に助力して呉れることになった」とある。

(53) 「マンスリー」一七号に、山口和雄がこの調査に出かけるきっかけについて次のように記している。「澁澤先生が氷見方面にお出かけになつて、此地方の舊臺網漁業が極めて興味深いものであることを私たちに語つて下さつたのは、たしか去年の今頃のことであつたと思ふ。それが動機となつて今回私がこの方面の舊漁業を調査することになった」。この調査は、彙報第三一「近世越中灘浦台網漁業史」（昭和一四年刊）として結実している。

(54) 富永清索。「マンスリー」一六号に「十九日富永清索・須佐啓次郎両氏来館、富永氏宿泊、歓迎晩餐会あり澁澤先生以下十三人列席」とある。「来訪者名簿」にも「九月十九日 富永君歓迎」として一三人の出席者の記名がある。ノート第一三「南会津北魚沼地方に於ける熊狩雑記」の金子総平の自序によれば、「……このノートの初めは昭和十年の夏休みに書起されました。

（中略）やがて湯之谷随一の熊狩人で話上手の富永清索さんが上京してアチックミュージアムを訪れて下さつた」とある。ここから、富永は新潟県北魚沼郡湯之谷村の熊狩りの名手であつたことが知られる。また櫻田勝徳も「澁澤先生のご配慮で、金子さんと親しくなつていた湯之谷村の富永清索さんが、昭和十一年九月にアチックに来られ、たまたま筆者がこの来客にお相手している内に、話しがはずみ、その聞き書を筆者が金子さんにお渡しした」（『櫻田1979』）と述べており、来館前後の事情が判る。

(55) 「マンスリー」には「達里調査隊記念晩餐会」と、また「来訪者名簿」には「達里調査隊歓迎会」とある。

(56) 「拵 1999」によれば、澁澤家には「お抱え」の植木屋がいた、ということなので、おそらくその植木屋のことと思われる。

(57) 「文献索引」シリーズ『日本地名索引』（昭和一二年四月刊）は五万分一地形図記載の地名索引で、村上俊順が担当していた。この記事によれば「奄美大島」の部分に関して、同島出身の浜田が助力をしたことがわかる。『日本地名索引』凡例に「由来地名の訓み方は甚だ難澁であつて、漢字のみを見ては読みがたきものが少なくない」とし、索引作成にあたっては「（一）地形圖

中に振假名を施せるものはそれに従ひ、(二) 小川琢治氏「市町村讀方名彙」に記載ある地名はその訓方を取り、(三) 爾餘の難讀又は誤讀の懼れあるものは之を直接地元の役場及び小學校長に對し惜しむ所なく問合せて訓法を記した」など様々な手段を用いて嚴密を期そうとしていたことが知られる。

(58) 東京・本郷の古書店。

(59) 敬三の義理の従兄にあたる。栄一の長女・歌子は穂積陳重に嫁ぎ、石黒の妻・光子はその次女であった。敬三のひとまわり年上で付属中学の先輩でもある石黒はよき相談相手であり、民俗学に対する関心を高めるきっかけをつくった人物の一人でもあった。〔櫻田1979〕

(60) 「マンスリー」一七号によれば、「山本五朗氏(福岡縣鞍手郡宮田町)十月十一日より書生部屋へ」「岩本辰生氏(福岡縣遠賀郡香月町)十月十一日より書生部屋へ」とある。

(61) 「マンスリー」に記載なく、また澁澤が同道していないため「旅譜」にも記載がなく詳細不明。

(62) 「旅譜」によれば、敬三は一〇月一六日には澁澤家の故郷である埼玉県血洗島(現・深谷市)の諏訪神社祭礼に日帰りで訪れ、翌一七、一八日には上野から出発し一泊で水戸方面を訪れている。しかし日誌の記事では、一六日に埼玉へ行き一泊のち一七日深夜に帰宅したことになり、「旅譜」の記述と矛盾する。

(63) 「旅譜」「マンスリー」に記載なく詳細不明。

(64) 「来訪者名簿」一〇月三三日項に「山口氏氷見採訪報告会」とあり澁澤、高木一夫、高橋文太郎、村上清文、村上俊順、五十澤二郎、及川宏、櫻田勝徳、宮本馨太郎、小川徹が出席している。

(65) 詳細不明。

(66) 柏竈社(註10)参照)の機関誌、『柏竈』のこと。

(67) 十字屋(註12)参照)の番頭で、澁澤邸へよく来ていたという。

(68) 古書店と思われるが詳細不明。

(69) 「旅譜」によれば村上で三面川鮭漁を見学している。

(70) 木野内正巳。「芳名簿」では、昭和八年一月一七日が例会出席への初回で、九年八月三日までほぼ毎回出席している。「マン

スリー」一号（昭和一〇年七月発行）の「会員消息」として「木野内氏―未だ病臥中。但し胸中悠然たる天地を蔵し快復に向はれつゝありと信ず」とあり、また二号によれば東京・芝の慈恵会病院に入院中であることがわかる。

(71) 詳細不明。

(72) 「旅譜」「マンスリー」とともにこの旅行の記載はなし。

(73) 詳細不明。

(74) 柳はこの年の一〇月、東京・駒場に日本民芸館を開館したばかりであった。柳の年譜（『柳宗悦全集』巻二二巻下）に「この月（昭和十一年十二月：筆者註）、三田綱町の澁澤敬三のアチック・ミュージアムを訪れ、「ざぜち」を見る」とある。アチックでざぜちの美しさに魅了された柳等は、翌一二年の正月、三河・中在家の花祭りを訪れ、また雑誌『工藝』八四号（昭和十三年二月刊）に「ざぜちのこと」（『柳宗悦全集』第一一卷所収）と題する文章を書いている。なおこの周辺事情については『民芸と民具』（浜松市博物館 1997）に言及がある。

(75) 古野清人。昭和九年に設立された日本民族学会は、澁澤も理事の一人となり、事務局も一時アチック内におかれていた。古野はその学会実務を担当していたことから、澁澤を知ることとなり、アチックに顔を出すことになったという【古野 1964】
【古野 1970】。「芳名簿」には、昭和一〇年六月にウィーンのシュミットを迎えた時の出席メンバーに名が見られる。

(76) 鈴木行三の校訂により彙報二一として昭和一三年に刊行された『奥のしをり』の著者で江戸の落語家。『奥のしをり』は東北地方巡遊の際の日記で、彙報二一巻末には「諸書に散見せる二代目船遊亭扇橋並に三代目並木五瓶に関する伝記的記録」の項があり、記事にある「大百科辞典」の抜書が掲載されている。

(77) 詳細不明。

(78) 詳細不明。

(79) 詳細不明。

(80) 「マンスリー」に記述なし。詳細不明。

(81) 詳細不明。

*引用文献

- [拵 1999] 拵嘉一郎「私とアチック・ミュージアム」『歴史と民俗』一五
- [櫻田・荒井] 『日本常民生活資料叢書』第十一卷、関東・北陸篇(1) 解説
- [澁澤 1937] 澁澤敬三『民具問答集』「まへがき」
- [澁澤 1933] 澁澤敬三「アチックの成長」『祭魚洞雑録』所収、のち『澁澤敬三著作集』第一卷。
- [澁澤 1939] 澁澤敬三『朝鮮多島海旅行覚書』「小序」
- [拾遺] 『柏葉拾遺』昭和三十一年(柏窓会)
- [古野 1970] 古野清人氏談話『澁澤敬三』上
- [古野 1964] 古野清人「澁澤さんと民族学会」『古野清人著作集』別巻
- [芳名簿] 「アチック来訪者芳名簿」渋沢史料館蔵。本稿では伊藤広之氏が昭和六二年に校訂したものによった。
- [マンスリー] 『アチックマンスリー』第一号〜第四四号、『季刊アチック』
- [旅譜] 『柏葉拾遺』所収、のち『犬歩当棒録』第三部、『澁澤敬三著作集』第四卷

*参考文献

- 『澁澤敬三』澁澤敬三伝記編纂刊行会
- 『澁澤敬三』宮本常一(日本民俗文化大系3) 講談社
- 『南島文献解題』成城大学民俗学研究所
- 『日本常民生活資料叢書』第一卷〜第二四卷 三一書房
- 『日本民俗大辞典』吉川弘文館
- 『日本歴史大辞典』吉川弘文館
- 『流通経済大学所蔵祭魚洞文庫目録』流通経済大学
- 『史料館収蔵資料目録』第八、一〇集 国文学研究資料館史料館

*また浜松市博物館・学芸員宮下知良氏、渋沢史料館・井上潤氏のご教示を得た。記して感謝したい。